

カテゴリー別情報

[TOP](#)

融雪剤の散布について

昨年12月からの記録的な大雪で県北をナシ、リンゴを中心に棚の倒壊や枝裂け・枝折れの被害が発生しました。

今後の樹体回復作業や剪定作業の遅れを解消するため、融雪剤の散布を行いその効果を確認しました。



(写真1)融雪剤散布(三次市作木町)



(写真2)積雪の深さは50cm程度

散布日:平成18年1月13日

散布面積:約5a

散布資材:ピートモス 約30リットルを手散布

散布時積雪深 50cm

●融雪剤散布後



(写真3)1月13日の状況(融雪剤散布)



(写真4)1月19日の状況(融雪剤散布)

散布6日後(1月19日)の様子:融雪剤を散布したところで融雪が促進されました。
地面が見えるまでに溶けています。
約1週間融雪が早まりました。



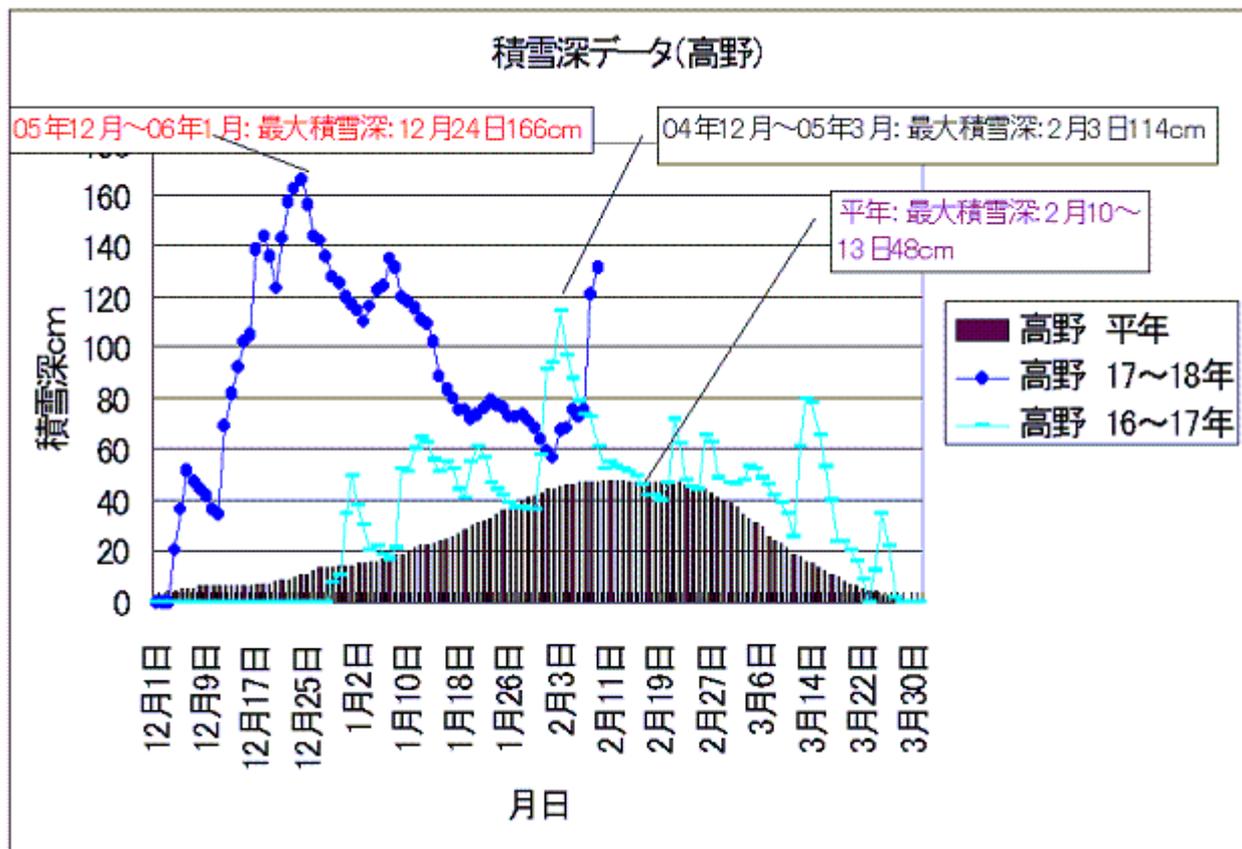
(写真5)地面が見えるまでに溶けています



(写真6)融雪剤として散布したピートモス

★今後の融雪剤散布の考え方：

- (1)融雪剤の種類：[こちらをご覧ください](#)
- (2)散布時期：平年の最高積雪深となる2月中旬を目安に1回目を散布，その10日後に2回目を散布します。
ただし，数日間天気が安定する予報のときに散布するようにします。
- (3)その他：散布後，20cm以上の積雪があると効果がなくなるため，再散布が必要です。



(図) 庄原市高野町の積雪深データ(平成18年2月9日現在)

=====
 <参考>

山形県農業研究研修センター中山間地農業研究部 研究成果(平成10年度)

技術名 消雪能力の高い資材

<新しい技術>

◎もっとも安価で消雪能力の高い資材は、火山灰土である。

◎比較的安価で火山灰土と同じ消雪能力の資材は、てんろ石灰である。

◎消雪能力の高い火山灰土とてんろ石灰は、無散布区より1回散布で8日程度、2回散布で12日程度消雪日が早まった。

<普及上の留意事項>

1 消雪剤の散布は、最高積雪深後の天気が安定した時に散布する。

2 散布後消雪剤がかくれる程度の降雪がある場合は、再度散布することにより消雪が早まる。

3 てんろ石灰は、アルカリ分が多いため、利用する場合はpHの上昇に留意する。

=====

情報提供機関: 農業改良普及センター果樹普及課
この情報は2006年2月に作成しました

